

2025/3/28

第2回のまとめ

- 電子線の干渉から電子を波と考えた.
 - 運動量と波長の関係 $p = \frac{h}{\lambda}$
- 容器に閉じ込められた電子のエネルギーは離散的になった.
 - 弦の固有振動と対応している.
- 水素原子の電子に最小のエネルギーがある.
 - 水素原子がつぶれないことが説明できた.
- 水素原子の線スペクトルを説明することができた

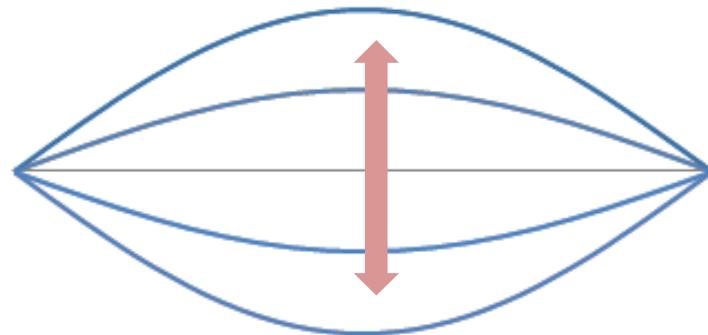
電子はどこにいるのか

- つぎは電子の位置を考えます.
- 電子は波のどこにいるのか.
- 電子の波を実数だと考えると矛盾が生じる.
 - 定在波では波が周期的に消えたり現れたりする.
- そこで電子の波を複素数だと考える.
- 不思議！ 世界は本質的に複素数だ.

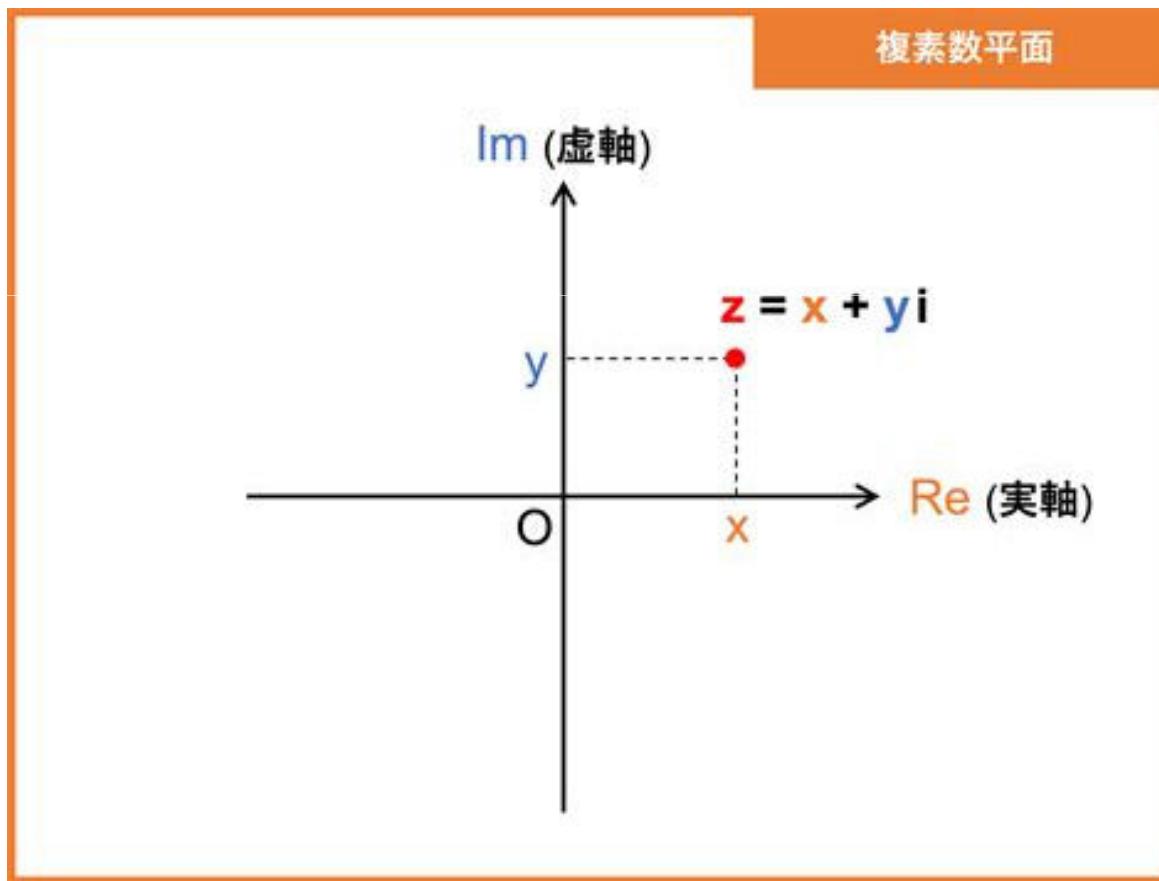
定在波を考えると問題が起こる

定在波の振幅は大きくなったり小さくなったりする。
無くなる瞬間もある。 波が電子を表しているのなら
電子がその瞬間消えてしまうことになる。

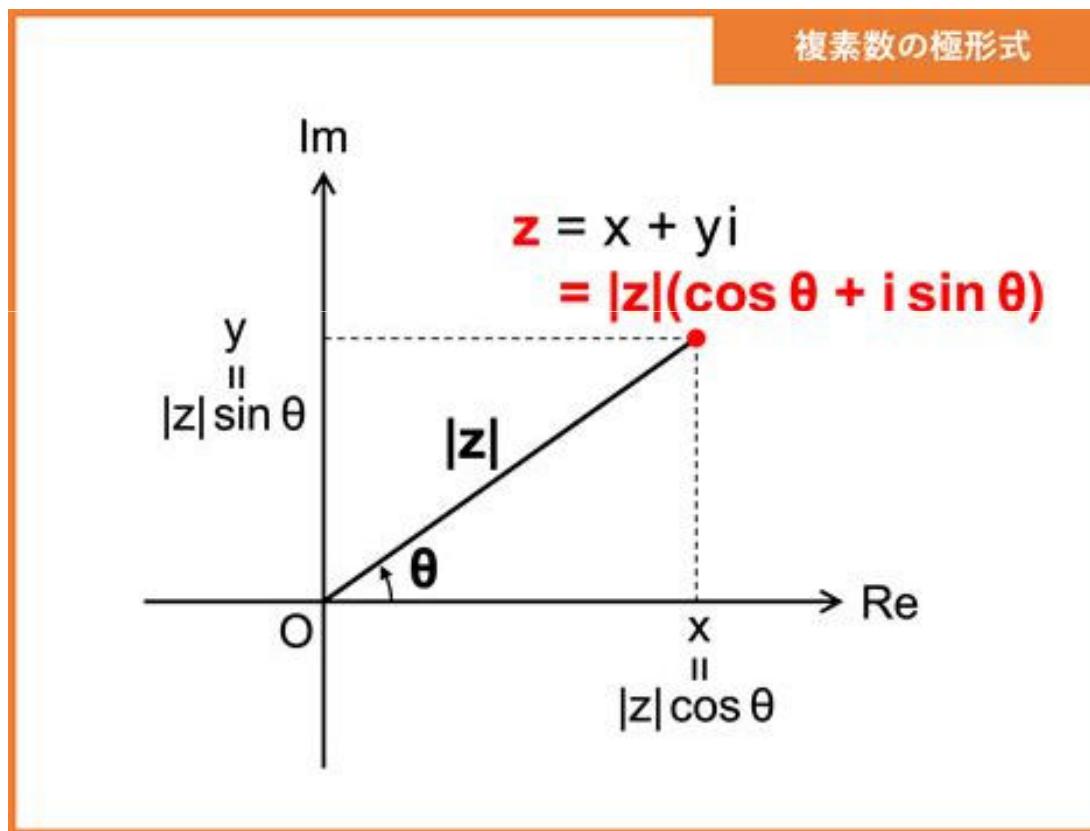
基本振動の場合



複素数

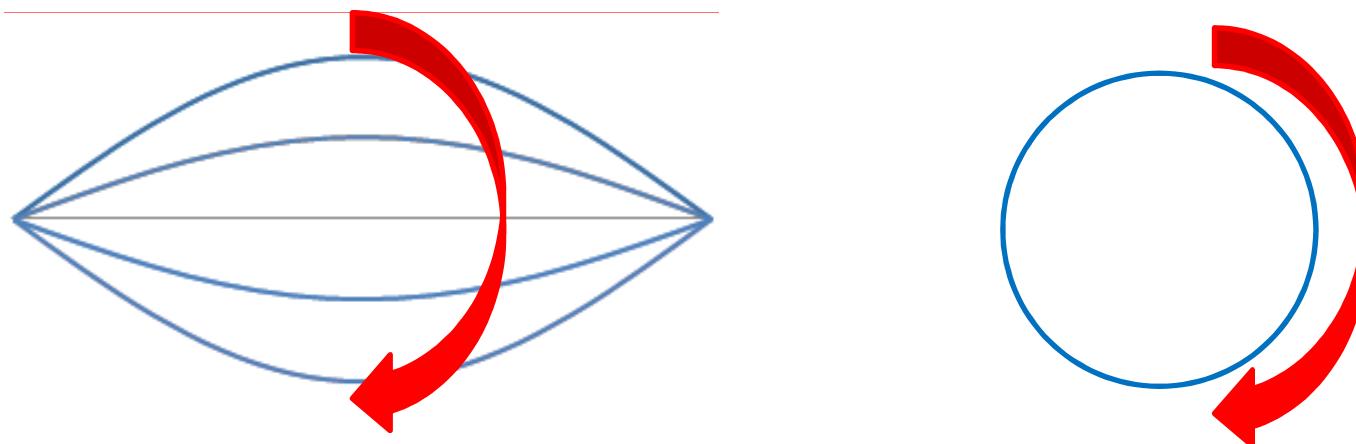


複素数



電子の波を複素数と考える！

- ・ 波の実部と虚部
- ・ 複素数の大きさは時間的に変わらず一定になる



古典力学では理解できない自然像

- 電子の状態は複素数で表される.
- 電子の状態は電子の実在形式なのか？
- 実在するものが複素数で表されるとは.
- 古典的な常識的自然像では理解できない.

電子の位置と運動量

電子は波のあるところにいるはず.

粒子に近いのは波束. (局在する波)

波束は多くの運動量でつくられる.

進行波は運動量を決めると波は無限に広がる.

電子位置と運動量を同時に決めれない.

